

トピックス

令和7年度の但馬牛種雄牛現場後代検定成績

毎年、当センターでは基幹種雄牛を選抜するために産肉能力を推定する現場後代検定を実施している。令和7年度現場後代検定成績が判明し、「茂東波」^{しげあずまなみ いけよし}「池義土井」^{いけよし}の2頭が、基幹種雄牛に選抜され、令和8年度から供用が開始される。

内容

現場後代検定法とは、種雄牛^{※1}の産子を実際に肥育した枝肉成績を基に種雄牛の産肉能力を推定する手法である。

検定には、種雄牛1頭につき繁殖雌牛40頭から生産した各種雄牛の産子の中から、6か月齢時の発育と体型の良好な個体を16頭選抜したものをを用いる。それらを県内肥育農家2戸(8頭)と畜産技術センター(8頭)の3か所で肥育し枝肉成績を確認することで育種価^{※2}を算出し種雄牛の産肉能力を推定する。

令和7年度に成績が判明した待機牛は、「若綿土井」^{わかわたどい}「勝脇土井」^{かつわきどい}「勝金土井」^{かつかねどい}「茂毬波」^{しげまりなみ}「茂東波」^{かすきどい}「和紗土井」^{わさどい}「池義土井」であり、現場後代検定成績から算出した育種価をランク表記で示した(表)。

この結果を踏まえ待機牛7頭と令和7年度の基幹種雄牛12頭の産肉能力を比較し、全体として非常に高い能力が確認された「茂東波」、脂肪交雑・MUFAが優れていた「池義土井」の2頭を令和8年度の基幹種雄牛に選抜した。

表 令和7年度の種雄牛現場後代検定成績

種雄牛名		若綿土井	勝脇土井	勝金土井	茂毬波	茂東波	和紗土井	池義土井
血統	父名	丸若土井	山勝土井	山勝土井	茂和美波	茂和美波	照和土井	丸池土井
	母方祖父名	照一土井	照一土井	照美土井	菊毬土井	芳山土井	芳山土井	照一土井
育種価	枝肉重量	C	C	C	A	A	B	B
	ロース芯面積	B	A	A	A	A	B	A
	バラ厚	B	D	B	A	A	C	D
	皮下脂肪厚	A	D	A	D	B	B	B
	推定歩留	A	C	A	A	A	B	A
	脂肪交雑基準	D	C	B	C	A	A	A
	細かさ指数 ^{※3}	D	D	D	D	D	D	D
	MUFA ^{※4} 割合	A	A	A	D	D	A	A

A:上位25%以上 B:上位25%未満~50%以上 C:下位50%未満~25%以上 D:下位25%未満

今後の方針

選抜した2頭の種雄牛を含む12頭の基幹種雄牛を活用して、引き続き但馬牛改良のスピードアップと神戸ビーフ、但馬牛のブランド力の強化を図る。

※1 種雄牛:人工授精に使用する雄牛。現場後代検定実施中の種雄牛を「待機牛」、一般供用される種雄牛12頭を「基幹種雄牛」と呼ぶ。

※2 育種価:遺伝的能力を数値で示したもの。皮下脂肪厚は小さいほど、その他の形質は大きいほど能力が高い。

※3 細かさ指数:ロース芯に含まれる細かなサシの割合。

※4 MUFA:モノ不飽和脂肪酸の略。筋間脂肪の質の基準となり、脂肪の風味や口溶けの良さに関係する。

種雄牛の詳細、動画はこちら: [兵庫県立農林水産技術総合センター 公式 YouTube チャンネル](#)

(北部 畜産部 寺田 博美)